

一わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘い  
ミュージアム都留からのお知らせ

芭蕉のさと企画展 甲州俳諧展「甲州の自然と変容する文化」

今回の企画展の展示は2部から構成されます。“甲斐へ来た旅人の見た自然”と“文化の変容と甲斐を訪れた俳人・文人”です。

江戸時代に入って太平の時代となり、街道が整えられるにつれて、人々が旅する機会も増えました。まず、最初にその旅の道のりを『甲斐国絵図』で確認してみてください。そして、絵俳書『百富士』で様々な地域から見た富士山をご覧ください。北斎の『富嶽三十六景』に先立って刊行された絵俳書は江戸時代の風景画流行の先駆けでした。単なる絵ではなく、俳諧を組み合わせたところに風雅・趣向があり、俳文学の広がりがありました。また、甲州は江戸に近いこともあって、様々な俳人・文人が訪れました。

甲州の俳諧は、甲府を中心とする動向と谷村で展開する動向とが、そのスタートとなります。甲府においては、江戸の俳人・岸本調和の指導を得て、調実らが出版活動を展開するのです。対して、谷村においては、松尾芭蕉と高山樗牛の交流がひそやかに展開していきます。

調和門の活動は、宝永・正徳頃に崩壊します。その後、江戸俳壇のリーダー・水間沾徳に師事しています。

対して、芭蕉の系統は元禄七年(1694年)の芭蕉他界をもって断絶します。

時代はうつり、宝暦以降、柳居門が甲斐俳壇を席捲します。その背後に黒露・宗瑞という俳人たちが存在していたことは、本展示で明らかとなります。この系統を蕉風と称する向きもありますが、芭蕉とは何の関係もない江戸における新蕉風と称した方がよいでしょう。この流れに上矢敵水がおり、幕末における都留市の俳人たちは、その門弟でした。

他方、五味可都里は主に蘭更の指導を得て、別種の蕉風を提唱します。これは京都の蕉風敬慕を原点とする幕末の一動向でして、これまた芭蕉とは何の関係もない活動でした。

以上の動向から、甲斐は蕉風で満ち溢れるのですが、厳密に言えば、柳居系蕉風と蘭更系蕉風との二大派閥が、甲斐俳壇を席捲して幕末に至るといえることです。

会期	2月15日(日)まで
時間	午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
観覧料	一般 300円(210円) 高・大学生 200円(140円) 小・中学生 100円(70円)
	※( )内は20名以上の団体料金です。
休館日	毎週月曜日、第3火曜日、祝祭日の翌日 1月1日(祝)～1月3日(土)

**勝山城のなぞに迫る!**  
学術調査もいよいよ大詰めを迎えました。本丸の調査では、6基の礎石を伴う柱穴の列が、敷地の中央で確認されています。また、東西に数本の溝状遺構が確認されています。溝状の遺構は、本丸内の敷地を区分けするための塀のようなものを設置するために設けられた可能性が考えられます。柱穴はこれ以外にも確認されており、これらの遺構とどのような関連性がみられるのか調査を続けたいと考えています。

増田誠美術館  
画伯が描いたふるさとの風景

会期 2月22日(日)まで  
開館時間 午前9時～午後4時30分  
会場 増田誠美術館  
(ふるさと会館2階)  
休館日 月曜日、第3火曜日、祝日の翌日、1月1日(祝)～3日(土)



増田誠が市内の各所で描いた風景画を中心に展示しています。  
「高尾山から関東平野を望む」

〈作品の紹介〉  
増田画伯がフランスに渡る直前に、高尾山に登り描いた作品です。

**情報未来館だより**

デジカメに興味のある方へ

“情報未来館デジカメクラブ”では毎月1回多目的メディアルームで技術向上を目的に月例会を行っています。この月例会に皆様も参加してみませんか。そして、さらに興味を持ったら“情報未来館デジカメクラブ”のメンバーになりましょう。

日時 1月25日(日)午後1時30分～4時

2月22日(日)午後1時30分～4時  
3月29日(日)午後1時30分～4時

※デジカメに関する質問(撮影の方法、取り扱い方)も受け付けます。事前に情報未来館へご連絡ください。

開館時間 午前9時30分～午後5時15分  
休館日 1月1日(祝)～3日(土)、5日(月)、12日(祝)、19日(月)、26日(月)、30日(金)  
問合せ先 情報未来館 ☎(43)1452